

令和4年12月9日

保健科学部学校推薦型選抜受験生の皆様へ

福島県立医科大学

令和5年度保健科学部学校推薦型選抜「総合問題」における出題ミスについて  
令和4年12月3日（土）に実施した令和5年度福島県立医科大学保健科学部学校推薦型選抜「総合問題」において、出題ミスがあったことが判明しました。

詳細は下記のとおりです。

受験生の皆様をはじめ、関係する皆様には多大なるご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げますとともに、再発防止に努めてまいります。

#### 記

#### 1. 入試の概要

- (1) 試験実施学部：保健科学部
- (2) 入試方法区分：令和5年度保健科学部学校推薦型選抜
- (3) 試験実施日：令和4年12月3日（土）総合問題  
令和4年12月4日（日）面接
- (4) 合格発表日：令和4年12月21日（水）
- (5) 該当受験者数：107名

#### 2. 出題ミスの概要

大問Ⅲ（別添2参照）において、以下2点の誤りがありました。

- ① 問2の(h)に脱字があり、受験生に混乱を招く設問となっていた。
- ② 資料2-2の一部に誤りがあり、問4は正答を導くことができない設問となっていた。

※出題ミスの詳細は別添1を参照ください。

#### 3. 出題ミスへの対応

大問Ⅲにおいて、以下の措置を講じました。

- ① 問2の(h)について、受験者全員を正答として扱います。
- ② 問4について、受験者全員を正答として扱います。

#### 【本件に関する問合せ先】

公立大学法人福島県立医科大学

事務局保健科学部事務室

室長 吾妻 正明（あづま まさあき）

TEL：024-581-5507

FAX：024-581-5529

E-mail：h-nyushi@fmu.ac.jp

福島県立医科大学 令和5年度学校推薦型選抜  
「総合問題」大問Ⅲ 出題ミス部分 正誤比較

① 問2に関する部分

問2 資料1-1と資料1-2に基づき、正しいと判断できるものには○を、誤りを含むものには×を記しなさい。

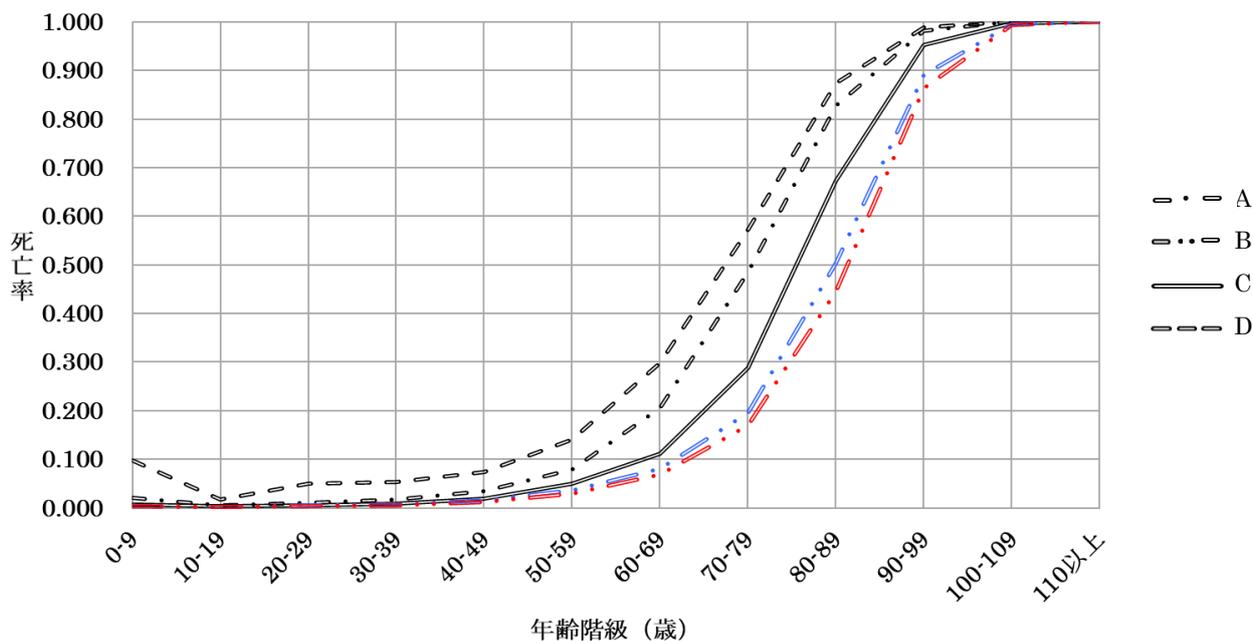
(中略)

(正) (h) 各年次における同じ年齢の男女の生存する者の割合を比較した場合、いずれの年齢も男性が女性を超えることはない。

(誤) (h) 各年次における同じ年齢の男女の生存する者の割合を比較した場合、いずれ年齢も男性が女性を超えることはない。

② 問4に関する部分

資料2-2 死亡率の推移 (正：青表記、誤：赤表記)



問4 資料2-2、2-3の凡例について、同じ年次の組み合わせを全て選びなさい。

- (a) 凡例 A - 凡例 E
- (b) 凡例 B - 凡例 E
- (c) 凡例 B - 凡例 G
- (d) 凡例 C - 凡例 E
- (e) 凡例 D - 凡例 G

令和5年度保健科学部学校推薦型選抜「総合問題」大問Ⅲ一部抜粋

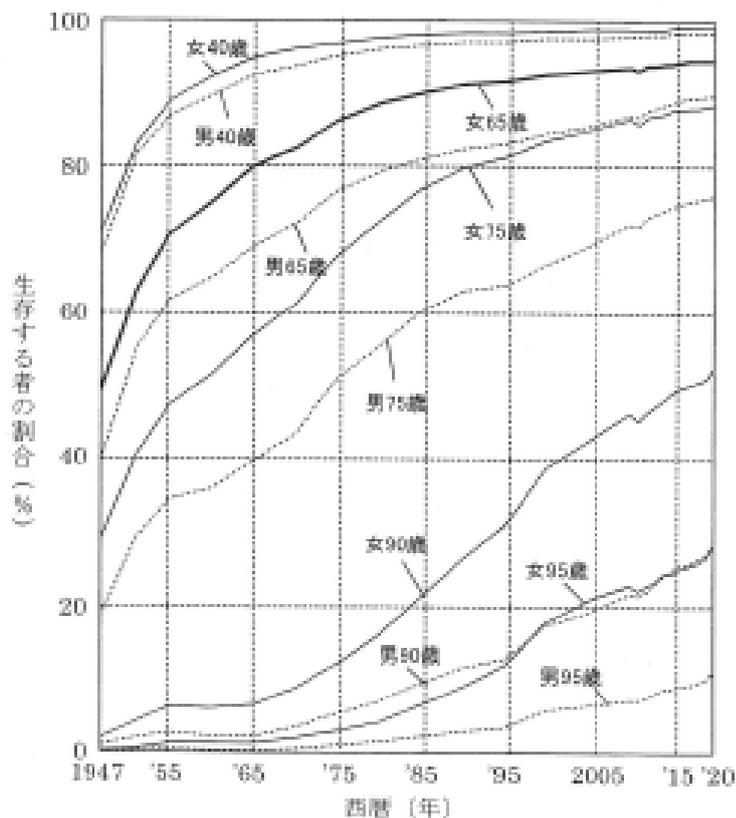
【Ⅲ】 次の資料について設問に答えなさい。

(中略)

資料 1-1 1995 年と 2020 年における生命表上の特定年齢まで生存する者の割合 (%)

西暦 (年)	男性					女性				
	40歳	65歳	75歳	90歳	95歳	40歳	65歳	75歳	90歳	95歳
1995	97.2	83.3	63.8	12.8	3.4	98.4	91.6	81.2	30.9	11.9
2020	98.4	89.7 <sup>(ア)</sup>	76.1 <sup>(イ)</sup>	28.4 <sup>(ロ)</sup>	11.1	99.0	94.6 <sup>(カ)</sup>	88.4 <sup>(キ)</sup>	52.5 <sup>(ク)</sup>	28.3

資料 1-2 生命表上の特定年齢まで生存する者の割合の推移



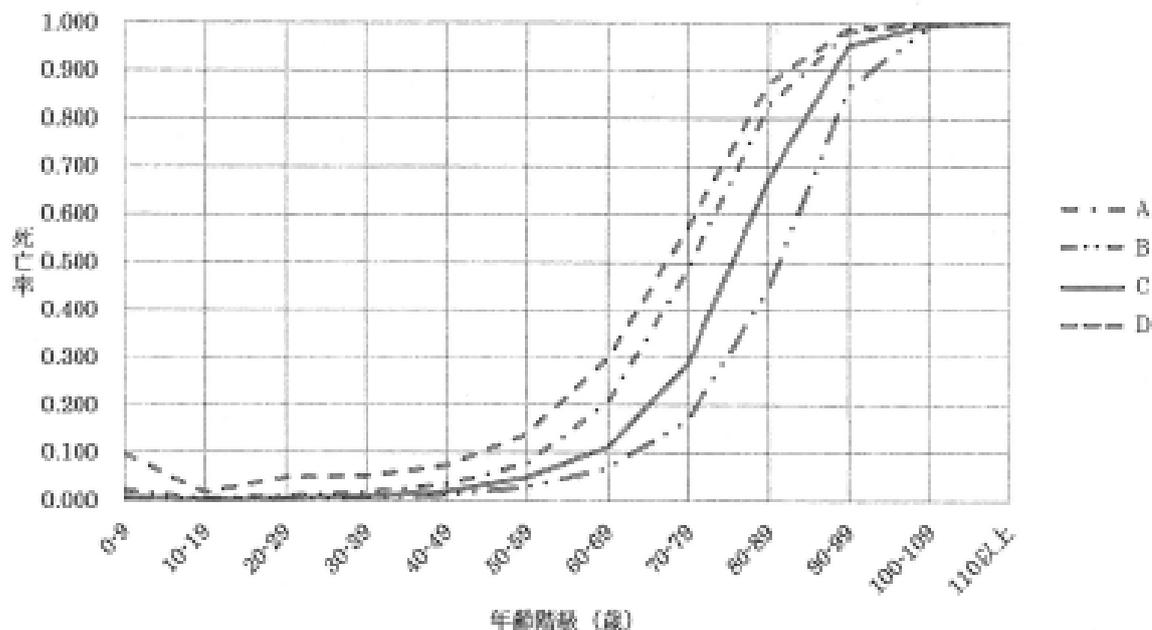
(出典 厚生労働省 2020年簡易生命表の概況)

(中略)

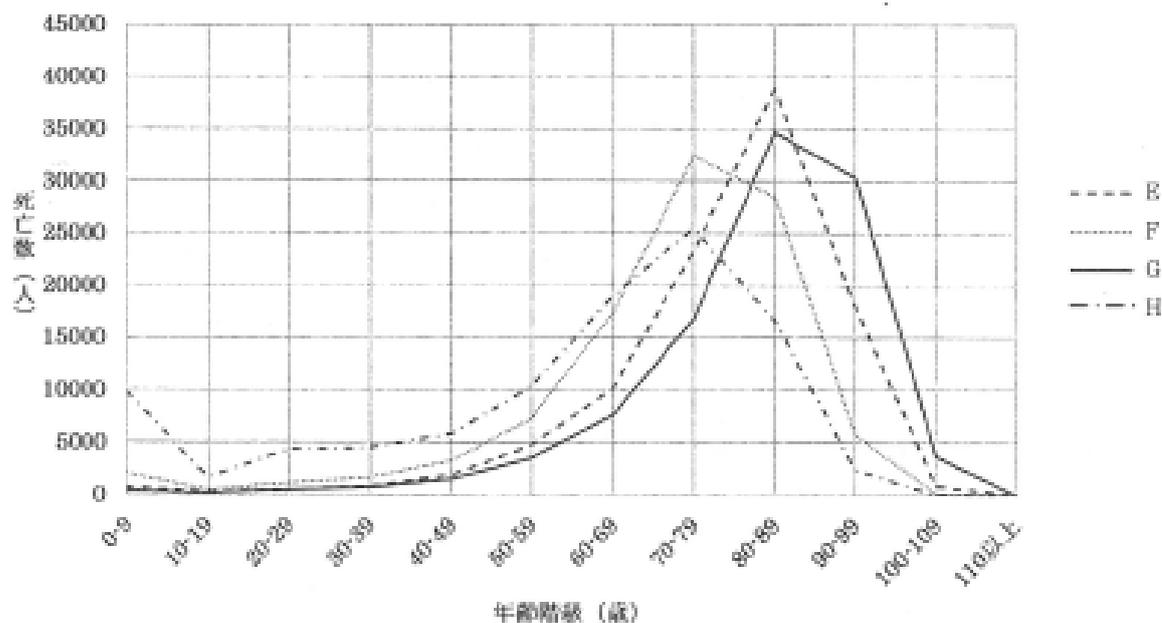
資料 2-1 年齢階級別の死亡率・生存数・死亡数の比較

年齢 階級 (歳)	1950年			1970年			1990年			2010年		
	死亡率	生存数	死亡数									
0-9	0.098	100000	9800	0.020	100000	2000	0.007	100000	700	0.004	100000	400
10-19	0.018	90200	1624	0.005	98000	490	0.003	99300	298	0.002	99600	199
20-29	0.049	88576	4340	0.011	97510	1073	0.005	99002	495	0.005	99401	497
30-39	0.053	84236	4465	0.017	96437	1639	0.008	98507	788	0.007	98904	692
40-49	0.073	79771	5823	0.034	94798	3223	0.019	97719	1857	0.015	98212	1473
50-59	0.140	73948	10353	0.079	91575	7284	0.049	95862	4697	0.036	96739	3483
60-69	0.298	63595	18951	0.206	84341	17374	0.111	91165	10119	0.081	93256	7554
70-79	0.572	44644	25536	0.485	66967	32479	0.287	81046	23260	0.196	85702	②
80-89	0.874	①	16700	0.828	34488	28556	0.673	57786	38890	0.504	68904	34728
90-99	0.988	2408	2379	0.982	5932	5825	0.953	18896	18008	0.890	34176	30417
100-109	1.000	29	29	1.000	107	107	0.998	888	886	0.995	3759	3740
100以上							1.000	2	2	1.000	19	19

資料 2-2 死亡率の推移



資料 2-3 死亡数の推移



(出典 国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」，全国：生命表データを元に作成)  
 (2022年7月19日データ取得)

(中略)

問2 資料1-1と資料1-2に基づき、正しいと判断できるものには○を、誤りを含むものには×を記しなさい。

- (a) 2005年における95歳まで生存する女性の割合は2割以上である。
- (b) 2020年における65歳まで生存する男性の割合は9割以上である。
- (c) 1985年における65歳まで生存する男性の割合は8割以下である。
- (d) 75歳まで生存する男性と女性の割合は、年々その差が広がっている。
- (e) 2020年における90歳まで生存する女性の割合は、1975年の75歳まで生存する男性と同水準である。
- (f) 90歳以上まで生存する者の割合が増加し始めるのは男女ともに1975年以降からである。
- (g) 1995年における75歳までに死亡する男性の割合と2020年の95歳まで生存している女性の割合を比較すると前者の方が高い。
- (h) 各年次における同じ年齢の男女の生存する者の割合を比較した場合、いずれ年齢も男性が女性を超えることはない。

(中略)

問4 資料2-2、2-3の凡例について、同じ年次の組み合わせを全て選びなさい。

- (a) 凡例A - 凡例E
- (b) 凡例B - 凡例E
- (c) 凡例B - 凡例G
- (d) 凡例C - 凡例E
- (e) 凡例D - 凡例G

(中略)